

我大君の

ひろきみその

よのつねならぬ

雲の上にて

御めづみも

菊の花

色香をば

見ながかしこさ

孝女

遠くさこゆる

聲もさびしく

しばぶく母の

春衣つゝるか

つねを
雁がねの

ふけし夜は

まくらべに

いと女子

ふたり

くらし燈火を

はかなくたどる

ほそきけぶりも

夜ごとくくに

かき立て、

針のみち

たてがてに

つむげる

いと

わかきころは

孝子のかいみと

ほめはやされて

はまれも高き

かくれなく

ひと郷に

名もしるく

をさな

はらから

冬のきて

山もあらはに木のはふり

残る松さへ

峯にさひしき